

研究課題名	より効果的な臍帯血幹細胞治療を目指した臍帯血研究 － 大阪市立大学大学院医学研究科による多施設研究 －
研究の意義・目的	<p>本研究は大阪市立大学が中心となって行う研究です。</p> <p>幹細胞は赤血球や白血球などのさまざまな血液細胞の源になる細胞で、臍帯血には多くの幹細胞が含まれています。この臨床研究では日本赤十字社と協力し、まだ十分に分かっていない臍帯血の有効因子やその個体差を探ることで、より治療効果の高い臍帯血を将来患者さまへ提供することを目指しています。</p> <p>これまで臍帯血は白血病（血液のがん）の移植治療に用いられるほか、さまざまな難病への細胞治療に利用されてきました。大人から得られた骨髄血と異なり、赤ちゃんとお母さんをつなぐ臍帯から得られた血液である臍帯血は、異種免疫反応（いわゆる拒絶反応）を起こしにくく、また、少量でも治療効果が高いことが知られています。痛みを伴わずに採取できることから、日本赤十字社ではたくさんの臍帯血をバンキングして必要な患者さまにお送りできるよう備えています。一方で、バンキングにはたくさんの臍帯血が必要となりますので対象の赤ちゃんは限られ、有効な因子や個体差について十分に解明されていません。効果の高いものを将来届けるようにしたいという思いから、低出生体重児やそのほかの疾患も含むすべてのお子さんの臍帯血を研究することが必要だと考えています。大阪市立大学医学部附属病院では、すべての赤ちゃんの出生時に少量の臍帯血を病院内での検査に用いています。これは貧血や黄疸といった赤ちゃんの病態に早く気付くための、診療の一環です。</p> <p>今回の研究では、この検査が終わったあとの残りの臍帯血を使用します。</p> <p>本研究の成果は、臍帯血を必要とする難病治療への大事な土台になるとともに、再生医療の発展にも貢献すると考えられます。</p>
研究を行う期間	「機関の長の実施の許可日」～ 2025年3月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2022年3月～2024年3月に大阪市立大学医学部附属病院の産科でご出生されたお子さんで、何らかの治療・検査のため小児科管理の入院となった方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>試料：【臍帯血】</p> <p>診療情報等：【在胎週数、出生体重、Apgar Score 1分値・5分値・10分値、分娩方法、児心音低下の有無、性別、診断名、胎盤重量、臍帯長、前期破水の有無、羊水混濁の有無、母体年齢】</p>
試料・情報の他機関への提供	この研究は 日本赤十字社近畿ブロック血液センターや国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所へ頂いた試料・情報を提供します。その際は、特定の個人を識別できない形で提供します。
この研究を行っている共同研究機関	<p>大阪市立大学大学院医学研究科発達小児医学 教授 濱崎考史</p> <p>日本赤十字社近畿ブロック血液センター 製剤部 部長 木村貴文</p> <p>国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 感染症制御プロジェクト 安居輝人</p>

試料・情報を管理する責任者	大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学 研究代表者 濱崎考史
本研究の利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪市立大学大学院医学研究科 発達小児医学 (担当者氏名) 濱崎 考史 電話番号：(06) 6645-3816 メールアドレス：ped@med.osaka-cu.ac.jp